

第5回東彼杵町小中一貫教育 導入検討委員会会議録

東彼杵町教育委員会
令和 7 年1月21日

I 開 会 令和7年1月21日(火) 午後2時00分

II 閉 会 令和7年1月21日(火) 午後4時00分

III 出席委員 木村 国広委員、佐藤 和則委員、富永 裕子委員、森 保憲委員、毛利 政俊委員、
永島 大輔委員、高原 郁美委員、中原 康尊委員、中路 知恵委員、吉永 信一郎委員、
正尾 敏委員、明時 千枝子委員、生田 真委員、山下 竜斗委員、岩崎 生大委員、
山口 厚委員、岡田 半二郎委員、岩永 純代委員、松山 幸一郎委員

IV 事務局 三根 幸博学校教育係係長、岩川 克行小中一貫教育導入検討事務局

V 案件事項

1. 開会
 2. 委員及び事務局職員自己紹介……………資料1
 3. 教育長あいさつ
 4. 報告・説明……………資料2
 5. 議事
 - (1) 視察報告……………資料3
 - (2) 「東彼杵町小中学校教育の将来に向けてのアンケート」結果報告・資料4
 - (3) 協議:①「導入の是非について」……………資料 5
 - ②「答申(案)について」……………資料6
 6. 次回の検討委員会について
 7. 閉会
- ※第5回検討委員会についてのアンケート記入……………資料7

VI 資 料

資料1-①:会次第 資料1-②:タイムスケジュール
資料1-③:東彼杵町小中一貫教育導入検討委員会委員等名簿
資料2-①:第3回検討委員会会議録 資料2-②:第1～3回検討委員会委員アンケート
資料3:東彼杵町小中一貫教育導入検討に関する先進地視研修報告
資料4:「東彼杵町小中学校教育の将来に向けてのアンケート」結果報告
資料5:「導入の是非について」
資料6:「答申(案)について」
資料7:第3回検討委員会についてのアンケート(別紙)

VII 議事内容

<次長>

本日は、たいへんご多用な中、第5回検討委員会にご出席いただきありがとうございます。ただ今から、第5回東彼杵町小中一貫教育導入検討委員会を始めさせていただきます。

お手元の会議資料1-①、本日のレジメに本日の会議の次第を記載しておりますので、その記載に沿って説明させていただきます。

委員及び事務局職員自己紹介ということで、本年度に入りすでに3回目の会議なので、詳細な紹介は省略・割愛しますが、本町行政部局の人事異動により交代した委員の紹介をします。資料1-③の名簿で、東彼杵町教育委員会、山口 厚が、役職の交代により教育長として委員を引き続き務めます。山口の後任の指導主事、岩永純代が新しく委員として、行政部局、町民課の社会福祉係・係長の岩崎生大が委員として加わります。よろしくお願いいたします。

委嘱状については、机上に配布しております。交付につきましては大変恐縮でございますが、割愛します。

続きまして、3 教育長挨拶です。山口教育長がご挨拶を申し上げます。

<教育長>

本日はご多用な中、ご出席いただき誠にありがとうございます。10月2日より粒崎教育長の後に、本職を拝命しております。前回まで指導主事として、この会議に参加しており、内容は大体把握はしておりますし、私が教育長になっても審議の目的等が変わることではありませので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

12月議会でも、本委員会について質問を受けています。課題や答申についても聞かれています。本年度中に小中一貫教育導入の是非を問うことを、議会でも答えています。今回も主な協議の中心になると思っています。

前回の第3回で粒崎教育長は、会議資料の議事録の2ページに、導入の是非判断のために確認したい4つのことを話されています。

「1点目、校舎一体型の小中一貫教育でのメリット・デメリットの理解を深めること。」

「2点目、児童・生徒、保護者、地域、教職員の意識調査によって現状の課題認識、児童生徒数の減少に伴う制約への不安、小中学校の交流、合同学習への意識、小学校から中学校の滑らかなつなぎ、学年の区切りの必要性の認識の把握をすることが大事であること。」

「3点目、児童生徒数の減少の予測による、校舎建設の適切な時期も、ある程度提言としても盛り込んだ方が良いのではないか。」

「4点目、小中一貫教育の先進地域に出向き、実際に校舎・施設を見て、関わった人の話を聞き、一貫校のメリットやデメリットや導入までの取り組みについて、実感したり検証したりできるということ。」

今回、2点目の意識調査の部分、4点目の先進地・校視察について資料や報告があり、意識調査アンケートに関しては、事前に見ていただき各委員からも分析、把握をいただいています。そのことを踏まえて、今日も協議をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<次長>

続きまして、4の報告・説明に移らせていただきます。事務局から説明をします。

<事務局>

第3回の議事録は、ホームページにもあげています。基本的には、アンケートの内容や先進地視察の候補地に関して、皆さんにご議論をいただきました。頂いたご意見のおかげで、アンケートの実施、11月18日の宗像市への先進地視察につながることができました。委員のみなさんの丁寧な議論により、アンケートに皆さんのご意見を反映でき、現状の子どもたち・保護者・先生方の実態が把握できました。今日も論議の方に時間が取りたいと思います。

検討委員会についてのアンケート結果を、15ページに過去3回分をまとめた分を掲載しています。「説明が良く理解できた。」では、微妙な変化があり、資料の準備の改善の必要性を感じています。「イメージがつかめた。」では、「どちらとも言えない。」がなくなり、「制度を導入すべきだ。」につきましても、少しずつ増えています。一貫教育の内容の理解が進めば、判断に迷うことは当然出てきますし、今日もそういったご意見等をいただければと思っています。特に第3回については、自由記述に関して多くの意見をいただき、できるだけその旨を反映して、今回自由記述を入れたことで、選択肢だけのアンケートでわからないところも見えてきて良かったと思います。

簡単ですが、第3回の概要について以上で報告を終わります。

<次長>

今の報告について、確認なり質問がございましたらお願いします。よろしいですか。後ほど、ご覧ください。

それでは、次の議事に移ります。議事の進行につきましては、設置要綱第6条第5の規定により、「会議は委員長が議長となる。」とありますので、木村先生に議事の進行をお願いします。どうぞよろしくお願いいたします。

<議長>

改めまして、こんにちは。長崎大学の木村と申します。本年も何卒よろしくお願いいたします。

委員の皆様のご協力を頂戴しながら、議事を進めてまいりたいと思います。冒頭、教育長様からお話があったように、これまでの3回の委員会の内容と、先ほど簡潔に事務局からの説明にあった宗像市先進地視察報告、加えて実施されたアンケートの結果報告、これらを踏まえ、今日の段階で東彼杵町に小中一貫教育を導入するかどうかを、最終的には検討委員会の案としてまとめていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

では、まずは先進地視察報告、よろしくお願いいたします。

<事務局>

資料3をお願いします。令和6年11月18日(月)に宗像市教育委員会、日の里学園(日の里中学校・日の里東小学校・日の里西小学校)に視察を行い、当日15名にご参加いただき、所期の目的は達成できたと思います。

また今回、本町のICT関連で教育内容等にもサポートをいただいているQ-bicソリューションズにもご参加いただき、ビデオの撮影や研修報告作成にご協力いただきました。

宗像市は、人口96,732人で、平成28年に小中一貫教育がスタート。人口は当時の半分になっており、当時はいろいろな課題も多くある中で、小中一貫教育への取り組みを早い時期から、必要性に迫られてやってきたということでした。導入から19年が経ち、2周目に入っているそうです。初期の段階から関わられた方々が、今も教育委員会で、教育長、主任指導主事、学園コーディネーターとして関わっておられます。学園コーディネーターを中心に、制度の骨格部分の柱立てを行い、修正を加えながら取り組みを進めてきたということです。日の里学園が文部科学大臣表彰を受けたということで、地元福岡教育大学があり連携をしながら、特に図書館教育の充実での表彰だそうです。2周目に入った早い時期から、日の里学園小中一貫コミュニティ・スクールとして取り組まれてきました。本町もコミュニティ・スクールに早い段階から取り組んでいますので、その面でも参考意見が聞けました。午前中の教育委員会での様子を、あとでビデオを見ていただきますが、6ページにその時の質疑の内容を示しています。

午後は、日の里中学校での説明、授業参観、質疑応答を行いました。その部分は8・9ページに掲載。11ページからは、委員の皆さんからの事前の質問についての回答を掲載しています。あとでご質問、感想、補足等をお願いします。

—VTR 視聴—

<事務局>

という感じで、学園コーディネーターの役割等についての説明、質問の時間をとっていただきました。

—VTR 再開—

<事務局>

スクリーンの横の説明や資料も、準備をしてくださいました。休憩時間にご覧ください。

午後は、小中一貫コミュニティ・スクールの歩みを、日の里中学校で説明をいただきました。

—VTR 再開—

<事務局>

ここでは、課題でよく聞かれたデメリットを質問した時に、日の里西小の校長先生が、「教育内容のカリキュラムも、作って行く中で、与えられてこれをやっていけばいいみたいになること。」と言われました。日々社会の状況はめ

ざましいスピードで変化しているわけで、そのことを踏まえて子どもたちにどんな知識、情報、態度等を含めて、教育内容としてどう学ばせていくかということについては常に新しい情報を入れて、カリキュラムの見直しも含めてやらないとマンネリ化になって、教師の方もやらされている感が強くなっていくところを、どう活性化させていくのが大きな課題だとお話をされているところです。

この後、子どもたちの授業の様子をもう少し観ていただきます。

—VTR 再開—

<事務局>

修学旅行の反省会をされていました。そのあと、いくつかの学年の授業を参観させていただきました。

—VTR 再開—

<事務局>

本町も2つの地域があるというところで、吉永校長先生からお話があり、コミュニティ・スクールも含めてつながることで、新しい行事を生み出すとかのプラスの面もあったというお話もありました。

最後に三根係長さんのほうで、お礼の言葉を述べていただき、帰りのバスも盛り上がって帰ってきました。すみません、ちょっと長くなりましたけれども、以上です。

<議長>

先進地視察に行く目的というのは大きく5つあると思います。

1. 導入の目的:なぜ小中一貫教育なのか。
2. 導入プロセス:どうやって、その内容・目的等を浸透させていったか。
3. 組織体制:どのような組織・体制を作ったか。(コーディネーター、人員、人員配置も含めて)
4. 運営方法:どのように運営しているか。この地域は19年目。小中一貫の9年間だと、9年・9年の2回り。
5. 成果と課題:この辺りは、改めて宗像市からお聞きいただいたんだろうと思います。

これらの観点で、山口教育長様はじめたくさんの方々が行っていただけていますが、こういうところが印象に残ったとか感想があれば、参加して下さった委員の方からご発言いただきたいんですが、いかがでしょうか。

<教育長>

平成20年から始めておられ、2周目に入っている事で、やはり不登校の問題や学校の荒れとか、子どもたちのいろいろな問題を多く抱える中で、先生方がこの状況をどうにかしたいという思い、小中一貫の9年間でということ熱心に進められたとお聞きました。

学園コーディネーターが非常に機能していたんですね。これは推測なんですけど、(当時)小中一貫教育ってたぶん見本になるところがまだなかった。それが上手くいくために、学園コーディネーターをされた先生方が、上手に浸透させる役割を担われていたと思います。地域に出かけることをまず進められた。

2周目になって、平成元年からコミュニティ・スクールを一斉に始められた。その下地があって、コミュニティ・スクール(CS)を上手に持ってこられた。CS と学年コーディネーターを、うまく分けられていたというのは、地域を育む地域の方ということで、かなり地域のこと、地域の願いを含めた学園づくりということ、地域と一体となって進められるなという印象を持ちました。

お聞きすると、地域の行事に子どもたちが積極的に参加する仕組みを作られているんですが、先生たちが土日に地域の行事があると、先生方に負担になりませんかと聞くと、もう先生たちは来なくていいと。先生たちが来ると、

先生たちが指示を出してしまうと。そうではなくて、地域の人たちに任せれば、やってもらえるという話をされまして、地域と一体となった、地域と学校が子どもたちを育てようという、地域の子どもの地域が育てようという、小中一貫教育とコミュニティ・スクールをうまく融合させて進めておられるなあということを非常に感じました。

<議長>

スタートは、子どもたちの実態からだということでしたが、発展して充実期に、コミュニティ・スクールとの連携で、それぞれ協力しながらも、地域と保護者がお互いの役割を自覚しながら進めているということだと思います。

<委員>

宗像市の7つの学園とも、小中一環B型の分離型ですが、距離が近いんですね。日の里中学校の前に、近くの小学校が見えるところにあり、もう一校も車で5分が10分くらいということで、兼務の先生方は近いところは歩いて行ける、少し離れているところは、公用車で5分くらいということでした。うちの校区に落とし込むと、東彼杵中から千綿小までは車で20分。事あるごとに、カリキュラムの見直しや先生方が集まって会議をやるんですね。持続可能性のために毎年見直し、繰り返して見直しをするので、近いのですぐに寄って話し合いができる。距離というのは大きいなと思いました。うちも小中一貫B型分離型でやった場合に、そんなにしょっちゅう教員が行ったり来たりできるんだろうか、難しいな、うちの校区だと距離が離れている実態があると思いながら、私はお話を聞かせてもらいました。

<委員>

子どもたちの学校は違うのですが、仲良くなっているかを見ながら伺っていると、交流が深まって非常に仲良くなると。仲良くなれば、中学校に行く時も安心して行けるということで、小中一貫の分離型、これもいいなと感じました。

<議長>

ありがとうございます。分離型かどうか別として、小学校同士の児童同士が仲良くなると、中学校での教育実践にいい効果があるというのは、皆さんお認めのところですよ。宗像市は幸いなことに、小学校と中学校の距離が近くて、そういうフットワークもすごくとりやすいということなんでしょうね。一方で小中一貫教育は大事で、これを利用するためにしても、私、他の市町とも連携で協働しているんですが、先生同士がお互いに交流し合うのはすごく大事で、これがコロナ禍に進んだのは、オンラインで本当にフットワークよくできるようになりました。移動すると時間がかかりますが、オンラインだと本当にし易くなりました。もし分離型で展開するなら、まずは東彼杵町らしい、先生同士、子ども同士の交流の仕方を工夫していくことになるんでしょうね。

参加されていない委員さんから参加の委員さんへの質問、ご意見とかあればお願いします。よろしいですか。

もう一つ、説明があります。アンケート結果報告について、事務局お願いします。

<事務局>

資料4になります。何度も取扱注意としているのは、自由記述にいろんな意見が書かれていて、この取扱いをどう公表するかと悩む内容もありましたので、皆さんとのご協議、あるいは教育委員会として判断したうえで公表したいと思っていますので、取扱注意ということでよろしくお願いします。

アンケート概要ですが、回収率は一定あります。文科省等の調査では、基準や有効性がいわれたりすると思いますが、子どもたちも高く、保護者、教職員の方もかなりの回答をしていただき、意見集約がされたと思います。

分析を20ページから載せています。保護者から、不登校・いじめの解消につながる等の意見がありました。今すでに連携協議に取り組んでおり、方向性も保護者の方との関連でも良い結果が出ていることや、委員さんから、子どもたちが他の先生方との交流を希望しているが、実際の授業となると少し違和感があったり、反対に交流を楽しみにしている子どもたちの実態が見えたという意味では、これまでの積み上げがやっぱり良かったということもあります。

小学生は、中学校に上がる不安感を持っているということです。21ページの中学生のアンケートは、実際子どもたちが中学校に上がったときに、追跡調査じゃないので正確ではないかもしれませんが、思ったほどストレスを感じないで過ごしている実態が見て取れます。保護者の意見からも、小学校の保護者は中学校に上がるまでは心配してるけれども、中学校に上がってしまえば思ったほどなかったということがありました。

23ページのところ、中路校長先生が、肯定的な解答の割合ということで「連携教育への期待」について整理をしてくださっています。(小保護者・中保護者・先生方の順)

①学力向上:83・88・90 ②学習習慣:88・88・90 ③個性尊重:90・84・90
④社会的資質など:92・88・98 ⑤地域貢献:81・76・95 ⑥人間性:92・88・97
⑦個に応じた指導:92・84・83 ⑧教職員の資質:84・76・93 ⑨学校家庭地域連携:89・89・91。

というようになっており、「⑤⑧は80%に満たないが、おおむね中学校保護者は、連携教育へ期待を寄せていることが分かる。」という分析をしてくださっています。

一方の実態として、子どもたちが不安に感じたり、相談をしたいところでは、学習のつまずきへのサポートの課題が、子どもたちの不安から見て取れます。

教職員の方も、一つは「学習指導において、小中9年間を見通しているか」というところが、意識化される必要があるという実質的な課題が見えてきています。25・26については、Q-bic さんの方で、AI を使った分析をしていただきました。

特に小学生については、合同行事等に肯定的な意見を持っていて、地域のことを学ぶことや異学年交流に関心が高いということ。授業の見学や一緒に授業することに対して肯定的ですが、少数意見として、授業時間の違いや先輩との関係、複式学級に対する不安、部活動の負担が大きいというような意識があります。

中学生につきましては、同じように交流や合同行事等に対しての関心が高いという傾向があるということ。

小学校の保護者については、いろんな意見の中にもあったんですが、アンケートの質問が多すぎるとか、アンケートの意味が分からないというようなご指摘があり、今後にアンケートを行う場合には中身も含め考慮が必要です。他には、スクールバスのことや不登校対応に関しての保護者の不安等もありました。

教職員については、小中連携や地域社会の連携の重要性が強調されているのと同時に、深まりを支持しているという学力向上研修会や授業研究会の重要性についても高い評価があるが、一部の教職員については懸念や疑念があり、大切だと思うという意見がある一方で、無理な時間を作ることになり目の前にいる生徒に向き合う時間や意識が薄れるのではないかと、連携して取り組むことで児童生徒理解が深まるという意見もありました。これも前から出ていますが、小中は文化が違うんだという意見も出ています。

授業研究等については、保護者とかもその様子はわからないという意見もありました。

さらに、この結果をもう一度 AI による分析にかけたところ、28 ページの改善策に5つでていますが、これまでの小中一貫教育、特に宗像市の取り組みと中身が重なります。

皆さんからのご意見や補足等あればよろしくお願いいたします。

<議長>

この委員会は、すごく丁寧に進めていらっしゃると思います。このアンケートも委員の皆様のおかげで、本当に仕上がり、これだけのデータを集めることができたこともその一つの表れだと思います。

アンケートの設問を作るのは本当に難しく、自分たちが調べたいことが全部わかるかというと、多分どのアンケートでも不可能ですね。一方で、調べたいことがわかる内容も充分ありますので、ぜひそこを汲み取って進めていただきたいと思います。合わせて、同じ結果でも見る人によってその解釈が全く違ってきます。この解釈の違いが、本質に迫る貴重なポイントになりますので、ぜひこのアンケートを読んで率直に思われたこと、または事務局に聞きたいことがあれば、この後ご意見を頂戴したいと思います。どの視点からでも結構ですので、気になったとか、こう思ったとか、事務局はどう思うかとかどんな形でも結構ですので、お気づきやご意見等をください。

<委員>

アンケートの分析をして、比較的肯定的な意見が多いというのが全体的な印象でした。もう少し、小中一貫ちょっとねという意見が出るかなと思っていたのですが、子どもたちの意見を見るとどうなのでしょう。子どもたちが、果たしてイメージできているかという疑問はあるのですが、そんなに否定的な意見がなかったというのが感想でした。

やはり、小学校の子どもたちが一番不安視しているところが学習面、人間関係、先輩とのつながりですね。その2点は出てきていますので、想定内だと思います。今の6年生のつぶやきからも、「中学校の学習って、先生どんなふうになっているの？」というのが出てきていますので、丁寧に関わりというのが必要になってくると思います。

あと気になった負の意見で、ここで言うのはどうかと思うのですが、教職員があまりその系統性の大事さ、小中のつながりが大事なのだと出てきてないのがすごく残念で、これが私たちの課題かということが正直一番ドキッとしました。子どもたちよりも先生方が、価値を見出せてないというか、考えてもいないのか、考える話題に乗ってきてないのか、そこがどうかなっているのが正直なところこの、アンケートでは思ったところでした。

<議長>

今のご意見に関連して、どなたかありませんか。はい、お願いします。

<委員>

全体的に小中一貫教育はいいと、この会でもそういうご意見が多い中、おっしゃったように、職員アンケートの結果が私も気になって。資料4、16ページの5教職員全体の①ですね、「小規模化する小中学校では、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な学習を意識して取り組むことが大切だと思う。」というのが、ここの部分がすごいネガティブというか、否定的な数値が出ていて、私もこれがなぜかなと不思議に思っています。

実際、一貫教育を進めていく上でも、やっぱり現場の先生方の理解やモチベーションがないと進まないと思っていますので、ここは調べるというか、理由をはっきりさせた方が良いのかなとおもいました。この小中一貫に関する説明が足りてないのか、なんか別の考えがあるのかですね。

同じページの⑪で、中一ギャップを感じることはあるのは、実際現場の先生もそう思われているので、それをなくすための一つとして一貫教育を検討しているんですが、現場の先生が困っていることに対して、どういうふうに小中一貫教育がいいのか、ほかのことを考えておられるのか、そういうところをもっと深掘りしたらいいなと感じました。

<議長>

お二人と全く同じ考えを、私は思っております。考察の中にも入れているんですが、小学校ができたのは、明治前期中頃、義務教育4年間から始まって、明治時代の終盤に6年になり、中学校ができたのは戦後です。なぜ中学校できたかという、義務教育が9年間になったからです。その時の制度上も、小学校は6年あるから、あと3年小学校を伸ばすか、もう1つ中学校を作るのかということで、その時できたのは小学校6年と中学校3年。

本当にお二人がおっしゃった通りで、義務教育の9年間で子どもを育てるとするのは義務教育の目的なんですが、大人が作った制度、戦後に作った制度が強く存在を持てしまい、小学校と中学校が別物みたいに、今も誤解されている節が少しあると。この辺りは、ぜひ私も書いているんですが、先生方に聞いてみたいなところなんです。

中学校ができて、義務教育が2つの学校で9年間過ごすということ、もしこれがなかったら中1ギャップは生まれなかったかもしれない。このことから考えると、私は東彼杵町がどう転ぶかは別として、大人が作ったことで結果的に課題ができた。これ大人が作ったのですから、大人がちゃんと壊して、きちんと子どもにとっていい形に仕組み直すのは、この委員会の中でとても大事なテーマなのだと思います。

ちょっと蛇足になりましたが、意見を付け加えさせていただきました。その他ございませんか。はいお願いします。

<委員>

先生のアンケートで、「校舎を次建てる時は線路際じゃないほうがいい。」とか、「新しい校舎は、どこどこ。」とかの意見がありました。また保護者の方からも、千綿だの彼杵だのっていうところもありました。

そもそも、どこに主眼をおいているのか。中一ギャップをなくすために小中一貫するのか、それともハード面としての校舎の建て替えが必要だから、それに合わせて小中一貫を進めるのか、そこがはっきりしてないからですよ。アンケートをとっても、よくわからない等の意見とか、どれが正しいか分かりませんが、皆さんそれぞれ中一ギャップの話を書いている回答もあったり、校舎の建て替えのことを書いているのもあったり、全体として、どちらが大切なのか。最後は、校舎を建てて小中一貫になるんだろうなあっていう、先程の4つの視点から始まっているっていうことは、今日は分かったんですが、どちらが大事なのか、そこははっきりさせたアンケートにすればもう少し良かったのかなと思うし、どちらに主眼をおいているのかっていう答えを聞きたいなと思います。

<議長>

今のご発言、僕にはよく分かります。事務局の方でお答え願います。

<次長>

アンケートの設定におきましては、小中一貫という言葉は全く出していません。小中一貫ということで、いろんな予見や考えが入ってしまったと思います。検討委員会では、校舎とかも含めて一つの課題として検討しておりますが、アンケートにはそういったことは全然盛り込んでない。ただ、自由筆記を設けた中で、やはり地域の方々が、より具体的な本町の学校の歴史的な経過も踏まえて、いろんなご意見をお寄せいただいたと認識しています。

そういった意味で、このアンケートは貴重なデータを拾うことができたと思っています。今後、この小中一貫教育の導入の是非ということで、進めていこうとなった時には、当然地域の方々への説明かれこれですね、そこで、もうちょっと具体的な先ほどの将来的な校舎の問題や、どこに建てるかということも、今度具体的なご意見をお聞きしていく機会になると考えています。現状では、あくまでも町の未来の教育像というアンケートを取ったということで、ご理解をいただければと思います。

<議長>

確かにおっしゃった通り、前の第3回では、延長線上の話として4つの中に入っていました。一方で、今回はそこに踏み込むのではなく、その前のところのどういう教育を東彼杵町で義務教育として実現したらいいかというのはぜひ聞きたいと。その辺のちょっとしたギャップが、アンケートのちょっと緩やかなところといいますかね、どこかに現れているかもしれませんが、それはそれとして一つの目的は達成できたというご回答だと思います。

あえて申し上げますと、もし一貫教育になると、その先に説明があり、校舎のこととかがどんどん話題になっていく。それを明らかにしていく委員会とか、いろんなことが始まるということですね。

<委員>

私も、この教職員のアンケートの件なんですが、資料3の4ページに、「日の里小カリキュラムが定着し、スムーズに取り組んでいる反面、やらされた感が、負担があるのかもしれないのも事実。」ってところが気になりました。

うちの園も、子どもたちを育てる先生たちが、毎日楽しく仕事ができるのが理想ですね。縦割り保育を何年前からしていますが、異年齢の子どもたちがお兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒に遊ぶことで学んだり、語彙力がつかめたり、優しい気持ちや育ったりしています。横割りで20人近くの子どもの見るよりも、縦割り少人数で見ると子どもたちの声もよく聞こえるし、子ども達が今日は何して遊ぼうとか、そういう声が聞こえてきます。

このあいだ会議をした時に職員から、「やらされた感が3年前ぐらいはありました。やっとその楽しさが分かるようになりました。」という言葉も聞けて、すごく嬉しかったんです。先生方も小中一貫になった場合、最初はやっぱりや

らされた感や、なんでしなくちゃいけないんだろうとか、すべての先生が理解するのは難しいと思います。やりながら、こういうことが見えてきたということが、うちの園でも少しずつ出てきて、いろんなところから呼び出しがあります。今日はお化け大会のところに参加して、いろんな子どもたちも自分の担任の先生じゃない先生と遊べる楽しさを子どもたちも実感しています。

このやらされた感とか先生方の最初の思いは、実際私も縦割りをするよと言った時に、先生たちはそういう思いで取り組んでいたんじゃないかというのがあったので、始めるとなれば、いろんな意見が出てくると思いました。

<議長>

いや、実に興味深いエピソードを頂戴しました。ありがとうございました。

<委員>

先ほどおっしゃったように、負担感を持っているというのは事実あります。今、ICT、外国語・英語、小中連携、何でもしなさいと上から降ってくるように負担を抱えている状況の中で、小中連携もということは少なからずある。教職員を中心に考えているわけではなくて、教職員が負担に思っていたら、いい教育が出来ない。子ども達に絶対影響するんです。これだけご理解いただきたい。

その中で、この教職員のアンケートの①の主語を見ていただきたいんですが、「小規模化する小中学校では」って書いてあります。教員は大事だと思ってるはずだと思いますが、それは小規模であるにかかわらず、連携は大事だと。系統的に継続的な学習指導を意識して取り組むことは大切だが、小規模化する小中学校に限らないのではという、全文を掘るように読み取った時にこうなったのかと、弁護ではないですが、そうだと思います。

先ほど申し上げましたように、社会全体でも言われているように、教職員の負担感の一つの社会的な課題でもあり、そこをなんとかしてくれないかという思いもあると思います。

<議長>

ありがとうございます。まずアンケートの答えについては、少し解釈してくれましたが、ぜひそのあたりを聞いていただけるとありがたいなと思います、校長先生方には。うん、まったく、まったく思いながら私も聞いていました。「掘るように読む。」といい言葉ですね。

子ども園さんからあったんですが、1つは縦割りのおもしろさ。アンケートで、中学生が小学生の手本になりたい、そういうところがあって、例えば小学校と中学校規模で縦割りになると、中学生が小学生にとって手本になるように頑張るとか、小学生が中学生を憧れに思うとか、そういう要素があるとすごく思いました。

あと、教職員のやる気・やりがいなんですが、学校って子どものウェルビーイングを目指すんですが、それはその土台の教師のウェルビーイングがないと絶対できないので、これを展開して行くとすれば、今いくつか課題が出てきましたが、トータルで東彼杵町として職員とどう向き合うかが、一つの大きな課題になると思います。

<委員>

先ほど、縦割りのご説明をうかがい、日の里学園に行った時に、9年間を見据えた時に、まず1年生から4年生までで4年生をリーダーとして育てる取り組みをして、その後5・6・1という区切りをして、でまた2・3年生での区切りがあり、その中でアンケートにあるような、小学校文化・中学校文化っていうようなものが解消されていっていると感じました。小学生にとって、中学生が憧れになるということで、合唱祭とかを小学生が見たら、すごく胸が熱くなるというか、その時点でそんなふうになりたいってなったり、印象に残ったのは、中学校の先生が兼務で行ってみたら子どもたちが本当に育っていて、また中学校で出会った時にその先生に教えてもらうことに憧れたりということ等のメリットについていろいろおうかがいしました。

<議長>

実はこの小中一貫ができるようになったのは、義務教育の規制緩和なんです。今は6・3で、小中一貫にすると、今あったように4・3・2とか、いろんなことが規制緩和としてできるんですね。そのことによって、メリットが出てくるといことなんです。またいい指摘を頂戴したなと思いました。

10分の休憩予定だったんですが、時間が押していますので、5分休憩させていただいて、その後これまでの審議や今日の内容を含めて、小中一貫教育を東彼杵町として導入するかどうかの是非について、皆さまからご意見を頂戴したいと思いますので、考えていただければと思います。5分休憩をさせていただきます。よろしくお願いします。

— 休 憩 —

<議長>

今から、小中一貫の導入の是非を問いたいと思うのですが、先ほど前段で、学校の先生のアンケートの中で、東彼杵町の子どもたちに指導するためだったらほかの学校でもどんどん指導していいよというのが、圧倒的に肯定的に認められていました。これは、本当にすごいことだなと思いました。連携の大切さ、先生から子ども達に手渡してることも本当にこれはすごいことだなというふうに思いながら、このデータを読ませていただきました。

この後、是非についてそれぞれの皆様からご意見を頂戴するのですが、その前に念のため確認しておきたいこと、質問したいことなどがあれば、ご意見・質問をいただければと思います。よろしいでしょうか。

諮問書の諮問事項の(1)「本町における、小中一貫教育導入の是非について」、充分だったかわかりませんが、本町の小中一貫教育導入の検討の必要性、小中一貫教育制度の概要・ポイント、メリット・デメリット、いろんなところから収集したり、実際に先進地に行ったり、またアンケートを取ったりしてきたところです。それをエビデンスとして、今日は是非についてお話しいただければと思います。

さすがに、順番にどうぞというわけにはいきませんので、こうだと思われた方から率直なところでお話をいただければと思います。この委員会の今日の結果といいますか、結論をまとめたいと思います。よろしいでしょうか。

賛成なんだが、なんか附帯条件みたいなことも当然あると思います。いろいろ考えながら、迷っていらっしやる部分の心境みたいなのもあると思います。そういうご回答でも構いませんので、ご遠慮なくお話しください。

<委員>

今一番思ってるのは、地域の代表として、子どもたちは地域の宝だ、自分の孫もお世話になってない学校ですが、みんな孫のように接して、朝からの登校の見守りをしているんですが、やっぱり千綿小学校で一番の問題は、子ども達が少なくなってきて、目に見えて複式学級になるのではないかという不安なんです。

出来れば、千綿小学校っていう学校を残してほしい。(千綿)中学校がなくなりましたが、残して欲しいというのが一番の願いなんです。それはどうすることもできないとすれば、やっぱり東彼杵町を考えた時に、三校合同、それもいいんじゃないかという考えがだんだん出てきました。

視察に行った学校は、基盤が出来上がってる学校で、それに近くなっていくのかなという考えを持ちました。小中一貫校にできれば、そういうふうにもっていったらえればいいかなと地域の代表としては思っております。

<議長>

乗り越えなければならない課題が、冒頭にあったと思います。その通りだと思います。一方で、地域でひとつの学校になっていくということは、制度面としては先進校の現状からもいいのではないかという話だったと思います。

<委員>

自分は、小学校と中学校と、2回統合を経験している一期生なんですが、小学校が統合して、その時も1年の時しか

1クラスじゃなくて、その後ずっと複式学級で、小学校5年生まで生活しました。その時も、一個上の学年団の人と総合学習などを行っていきんですが、算数・国語は分かれて勉強になる。その中で、総合や体育の中で一つ上の学年の方と関わってすごく影響されて、とてもお手本になるというか、さっきも話題になった縦割り教育の方向につながるのかなと思います。

私自身ボランティア活動でも、子ども達に長く携わる中で、子どもたちにどう寄り添うのかというのも、いつも頭の中に置いて接しています。「子ども真ん中」が話題となり、言われて続けている中で、その声が今の小中学校で本当に広げられているかというのは疑問で、このアンケートには出てこない小中学生なりに考えている不安というものもあると思います。不登校とかいじめ対策にも携わらせてもらっていて、大人に言えない子どもたちの声を、私自身も聞いたことがあり、それをどうしていくかというのは問題なのかなと思います。小中一貫校になった時に、そういう課題もついてくると思いますが、それをこの東彼杵町で同じ一地域としてやっていく中で、連携しやすく、困っている子どもたちも徐々に参考にすることで、見えてくる課題もあるなど、話を聞きながらずっと思っていました。

子どもたちの声を聞いて寄り添うことが、すごく難しいと思って、中学生の学習支援や学童保育でも携わっていながらも、本当に全員のことを把握できてるかと言われると、そうでもない気がして、そこを拾い上げていく中では、やっぱり一校にしていくことが重要なのかなと思っています。

<議長>

皆さんもそうですが、自分の体験をもとに話をされるので、すごく説得力があるなと思いました。

義務教育の本当の最大の課題は、多様な子どもたちを誰一人取り残さず育てていくこと、これが義務教育の最大のテーマです。今のお話は、これを町全体・地域全体でしていくために、ひとつの学校になってやっていくことは、可能性があるのじゃないかというように受け取れたのですが、よろしいですか。ありがとうございます。

<委員>

2校で校長をさせていただいて思うことは、どっちも残したい、これが一番です。ただ、複式学級だけをさせたくないということを、今まで複式学級の授業をしてみようかなと思います。自動車工場の勉強と豊臣秀吉の勉強を一人の先生が、「渡り」と「ずらし」というのを駆使して、指導するっていうのは意外に大変で、そしてあまり効果がない。学力もそんなに上がらない感じで、小規模の学校ではできる限り複式授業しないような形で、工夫して授業をやっていきます。特に、国語と算数では、千綿小学校の複式学級は避けたいという思いが強くなります。その中で、吸収合併とか統廃合的なマイナス的なイメージではなく、小・小が、小学校同士が一つに緩やかになっていければ、それが一番いいかなと思う意味で、小中一貫教育に賛成していきたいなと思います。

その小中一貫を一体型になる前に3年間するっていう計画が、最初に出されていましたが、小中一貫分離型を3年するために、2年間ぐらい話し合いが計画されている。それが教職員の負担になるんですが、この負担を負担感に思わせないようにするのが私たちの仕事であるというふうに話をおうかがいして感じました。

子どもたちが安心して、中学校に行けるようになる。千綿小の子と彼杵小の子が、分離型で仲良くなり交流を深め、職員間・保護者間の連携も深めて中学校に行くと、さらに教育的な効果が発揮されていくんじゃないかなと思いますので、この負担感を、できる限り私の力で減らしていきたいと思っておりまして、小中一貫教育を進めていただければありがたいなと思います。

<議長>

ロードマップは、具体的に方向が定まれば、推進されます。その中で、校長先生方の役割をお話いただきました。

最初にお話いただいたことは、両校を経験された校長ならではの本音だと思います。複式については、アンケートにありましたように、先生たちはプロ意識を発揮して、今の状態でも複式になったとしても一生懸命頑張るというふうに宣言をされていましたが、本当の本音、本当のことをお話しして下さったのだと思います。1人の先生がやっ

ぱり2つ授業をする、2倍のきつさというのはやっぱり先生にとっても負担だし、先生にとって負担ということは、子どもにとってもやっぱり体制的にはよろしくない状況かもしれない。そうすると単式、そこには他の可能性も含めて、小中一貫教育の魅力があるんじゃないという話のように受け取りました。ありがとうございました。

<委員>

私は小中一貫に関しては、大いに賛成します。子どもたちの関わる環境が、縦の繋がりや横の繋がり、そういう経験が社会に出たときに、身についたものが社会に反映されるという期待があるからです。

先ほども言われましたが、「してください。」と上から言われて、先生方の業務が増えたり、今の働き方改革の時代にどう合わせていくのかというのが、疑問に思いました。

あと、他校との先生方同士がいろいろな児童がいる中で、情報の共有であったり、教え方もやっぱりひとりひとり違う時に、ICT やネットで授業をする中で、そこをどうリカバリーしていくのかと思いました。子ども達にとっては、良い環境だと思います。私の知り合いに、東彼杵町の子育て支援が充実していて、移住を検討されている方が2名いらっしゃいますが、小中一貫も、私は移住の決め手につながるのではないかなと思うので、もっと議論を深めて、皆さんにとって良い東彼杵町を作ればと思います。以上です。

<議長>

どうぞ続けてお話しください。

<委員>

私自体は、地域の代表として参加していますが、小・中両方に子どもが在籍している保護者の意見として、先進地の視察のメリットとして、中一ギャップが極端に少なくなった話がありました。私の子どもも、ギャップを経験し、委員会の先生方のおかげで何とか復帰をしました。本人も我々親も苦しみました。そういう親御さん、子どもたちが少しでも少なくなればという思いで、ぜひ進めていただきたいなと思っています。

<議長>

今の皆様のご意見と、この場の今の雰囲気から思うのですが、小中一貫教育については導入という方向で進めていくという委員会の意見として取りまとめたのですが、よろしいでしょうか。

<各委員>

—了承—

<議長>

ありがとうございます。一方で、課題が当然いくつか出てきますので、今日ご意見いただいたものから、事務局の方で取りまとめていただいて、今後の計画の貴重な資料として残していただければと思います。

導入の目的を含め、地域の方から学校の先生への言葉とか本当にありがたいし、お父さんお母さんが苦しいというこの気持ちは、本当に大事にしていきたいなと思います。

この先の予定のご説明していただければよろしいですか。

<事務局>

資料の5と6に、「導入の是非についてのご意見」と「答申案についてのご意見」という形で資料を準備しております。先ほどからありましたように、「是」という方向で進んでいきますが、課題を丁寧に論議していくことが、この検討

委員会のスタートの部分で、確認をされました。今日も、皆様のご意見をいただき、それに従って進めていきたいと思ひます。答申に、皆さんが感じられている課題や、言っていた内容も入れていきますが、経験等も踏まえて、そういったものが凝縮されていくことでより質の高い答申となり、それが今後の基本方針につながっていくと思ひます。メールか封書でお送りをしますので、返信をよろしくお願いします。

それをとりまとめまして、皆さんにはもう一度、答申(案)という形でお返しして、3月に第6回目の検討委員会で、最終確定をさせていただき、それを答申として委員会の方に提出をするという段取りをとっていきたくと思ひます。

答申後、令和7年度からは予定としては、次の基本方針の策定につながっていきますが、今後ともご協力をよろしくお願いします。今日は、丁寧なご論議と貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。

<議長>

まとめさせていただきます。次回は、答申が出ますが、それは事務局から提案してもらいます。一定の期限を区切って、答申案にこんなことを書いてほしいという意見をお願いします。事務局の方から皆さんに、締切とかを案内してください。それを受けて、答申案を出すということですね。次回3月は、その答申をみてもらい決定して、委員会の意見として、教育委員会の方に提出するということです。よろしいでしょうか。

<次長>

はい、ありがとうございました。

木村教授におかれましては、議事進行まことにありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましても、ご協力いただきありがとうございます。

先ほどありましたように、次期の会議が3月ということで予定をいたしております。また、日程調整につきましては、ご意見をいただいた上での答申案をまとめまして、一旦皆様方にご案内をして、次期会議日程の調整を諮っていきたくと思ひますので、よろしくお願いいたします。

<事務局>

最後に、アンケートに関してですが。

<次長>

申し訳ございません。資料7につきましては、初回から経過を整理する中でアンケートを取らせていただいております。今回の内容は、そういった必要はないと判断いたしますので、今回は省略させていただきたいと思ひます。そのような対応でよろしくお願いいたします。資料7は省くということでお願いします。

それでは、以上をもちまして本日の会を閉じさせていただきます。本日は、まことにありがとうございました。お疲れ様でした。ありがとうございました。